

# センター通信

駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センター

TEL : 0138-51-0381

駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターの主な活動区域である七飯町大沼周辺の国有林は、大沼国定公園エリアに所在し、水質保全や景観、野生鳥獣生息環境の維持向上等が強く求められ、環境保全や森林整備への関心や期待が高い地域です。当センターでは、森林ボランティア団体や地域関係者等で構成する「大沼自然豊かな森づくり協議会」による「多様性のある森林への再生」及び「森林環境教育の推進」に取り組んでいます。

## 樹木博士を目指して

当センターでは、多くの人達が樹木の名前を識別できるように、それをきっかけとして森林に親しんでもらう「樹木博士認定活動」を推進し、西大沼国有林に設置した常設コースを活動の拠点として認定会の定期開催等を行っています。

6月3日(日)の第一回樹木博士認定会には、親子連れなど十五名が参加し、樹木博士を目指しました。

まず、事前学習コースで「ブナの葉の縁は波型で、側脈が波のくぼんでいるところへ伸びている」など、葉の形や付き方の違いによる樹種の識別方法を学習します。

次は、テストコースで、二十種類の樹木の識別試験に挑戦です。試験木の葉や幹をよく観察して手で触るなど、樹木の特徴を思い出して、解答用紙に木の名前を記入します。

最後に、試験結果に応じて段・級位を決定し、樹木博士認定書が授与され、さらに上位を目指し、次回認定会への挑戦を申し込む参加者もいました。



事前学習の様子

これまでに、延べ千七百四十九人に樹木博士の称号を付与しており、今後も、多くの人が森林とふれあう

きっかけづくりの活動を進めていきます。

## 広葉樹の森林づくり

吉野山国有林では、針葉樹人工林の伐採跡地に広葉樹を植栽するなど、大沼周辺に元々自生していた広葉樹林への誘導に取り組んでいます。そのため、大沼周辺の広葉樹の種子から発芽させた実生苗や、天然更新した稚樹の山引き苗を育てています。



カミネッコンの作成

6月16日(土)、同協会メンバーと一般参加者の総勢二十四名による「多様性のある森林への再生」を目的とした森林作業を行いました。

今回は、これまで育てた広葉樹の苗をカミネッコン(再生紙段ボールの植樹ポット)に植え込むバイオブロックによる植付けです。初めての参加者は、カミネッコン作りに手間取っていましたが、経験者からのアドバイスを受けながらの作業で、植樹ポットをスムーズに組み立てるようになり、苗を丁寧に植え込んでいました。



広葉樹林への誘導

ミズナラやイタヤカエデなどの苗を植え込んだバイオブロック百五十三個が完成し、カラマツ人工林の上木が疎開した部分に、七個を一組に色んな樹種を組み合わせて設置しました。

今後は、植栽した苗の成長を促進させるための下草刈り作業等を行って、広葉樹の森林へと誘導していきます。